

若 麦



草津市青少年育成市民会議
シンボルマーク

No.80
2020.3.15

編集・発行

草津市青少年育成市民会議

(事務局)
草津市草津三丁目13番30号
TEL. 077-561-6899
FAX. 077-561-6780

- 1～3ページ
草津市青少年育成大会
- 3ページ
青少年問題をみんなでトーク
- 4ページ
賛助会員紹介
知事・県民会議表彰者ほか

草津市青少年育成大会

主催・草津市青少年育成市民会議 共催・草津市教育委員会 草津市



挨拶運動啓発作品入賞者

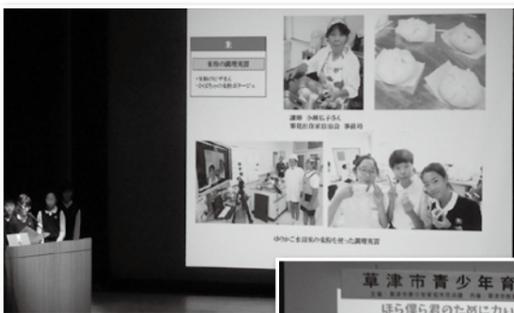
市民会議会長表彰受賞者



添島 秀彦さん
玉川学区青少年
育成区民会議

中村 武仁さん
南笠東学区青少
年育成学区民会議

草津市青少年育成大会



昨年11月24日(日)草津アマカホールで「草津市青少年育成大会」を開催しました。

当日は、青少年活動に熱心に取り組んでこられた方々と、挨拶(あいさつ)運動啓発作品入賞者の表彰を行いました。また、茨川小学校より活動事例を発表していただきました。その後、ロックバンドのJERRY BEANS(ジエリービーンズ)さんより、悩みを抱える人の心が少しでも楽になるように、自分の生き方を選択し自信が持てるように、3人の経験からなるメッセージを語り、音楽で伝える「講演ライブ」を行っていただきました。

～言ってみて その一言で かわるから～

令和元年度 挨拶(あいさつ)運動啓発作品入賞作品

賛助会員の皆さまの協力ありがとうございました。

令和元年度 賛助会員名簿 令和二年二月末現在 (順不同・敬称略)

- ★企業・団体の部
- (一社)びわこ薬剤師会
 - 草津ライオンズクラブ
 - (一社)草津東医師会
 - (株)鈴木測量設計事務所
 - 草津・栗東金融協議会
 - 草津市校長会
 - 草津市立幼稚園長会
- ★個人の部
- 草津支部保護司会
 - オムロン(株)草津事業所
 - 草津ロータリークラブ
 - 綾羽(株)
 - 中村司法書士事務所
 - (株)吉田工務店
 - ホテルポストンプラザ草津
 - イオンモール(株)イオンモール草津
 - 草津電機(株)
 - レクス草津(滋賀トヨタ自動車(株))
 - レクサスエーストピアホテル
 - 草津市教育会
 - ダイキン工業(株)滋賀製作所
 - 青木 和子
 - 伊藤 定雄
 - 田中 定一
 - 津田 正慎
 - 中村 陽子
 - 松村 晴美
 - 湯浅 敦

多賀町青少年育成町民会議との合同研修会を開催しました

9月29日(日)に、多賀町青少年育成町民会議の皆様と一緒に草津市役所で合同研修会を開催しました。

はじめに、笠縫学区まちづくり協議会子ども育成部会で元部会長の山田ひかるさんが、「挨拶(あいさつ)運動」について講演されました。大変地道な活動ではありますが、継続することで色々なつながりができて地域の輪になり、それが世代を超えた大きな輪に広がっていくことについてお話しいただきました。講演後は、個人の活動を地域に広げていくための工夫について質問があったり、丁寧な挨拶(「おはようございます」と挨拶すること)の大切さが話題となったりするなど、活発な議論ができました。



次に、多賀町青少年育成町民会議の池尻 力会長より、多賀町での活動について事例発表をしていただきました。多賀町では、子どもたちに、地域に見守られているという安心感を持ってもらえるように、学校訪問をして授業を参観したり、中学生が利用するバスの待合

所に、座布団を敷いたり花を生けたりして、心が安らぐ場にしたりするなど、地域に根差した取組ができていく一方、新たな参加者を増やしていくことに課題があるということで、今後、草津市においても担い手不足が危惧される状況の中で、より多くの方に参加してもらえる会議の在り方について話し合いました。

普段、他市町の活動について直接話を伺う機会が少ない中、互いの市町から多くの方に参加いただいたことで活発な意見交換ができ、大変有意義な研修会となりました。



滋賀県青少年育成県民大会

11月9日(土)安土町文芸の郷「文芸セミナリヨ」で滋賀県青少年育成県民大会が開催され、草津市からは左記の方々が表彰を受けられました。

●滋賀県青少年等知事表彰
青少年健全育成成功労者の部

飯田 章一さん(矢倉学区)



地域青少年の健全育成、子ども会活動の充実・発展への貢献



山崎 昌則さん(笠縫東学区)
地域青少年の健全育成、子ども会活動の充実・発展への貢献

●滋賀県青少年育成県民会議顕彰
青少年指導者の部

中野 宗城さん(玉川学区)



地域青少年の育成、指導に貢献

編集後記

子どもたちは、いつも一所懸命です。「我々大人が真剣に誠実に子どもたちと向き合えば!」と改めて思いました。

(老上学区 小浜)



挨拶(あいさつ)運動啓発作品

多くのみなさんから8,270点の応募をいただきました。大賞などの優秀作品を紹介します。

●大賞 山口 和輝 (南笠東小学校3年)



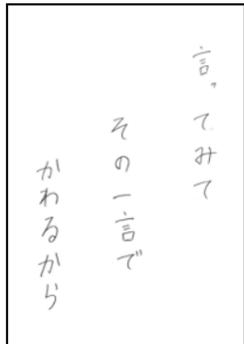
あいさつをするといれしくなってもだちができる。



●特選 久泉 夢歩 (高穂中学校1年)



一言、勇気をだして言っただけで、自分の気持ちも相手の気持ちもかわるから、一人一人が頑張ってあいさつを一言でいいからしてほしいと思う。



特選 谷口 隼斗 (草津第二小学校1年)



げんきいっばいにちまいにちあいさつをしたいな。



特選 和久田 英司 (笠縫東こども園)



あいさつは、笑顔でげんきに自分からします。



●会長賞 和久田 咲良 (渋川小学校6年)



あいさつで人との絆やつながりから得るたくさんのあふれる笑顔は、みんなの宝物になるといふ思いをこめてこの作品を描きました。



特別賞 杉町 知美 (玉川小学校4年)



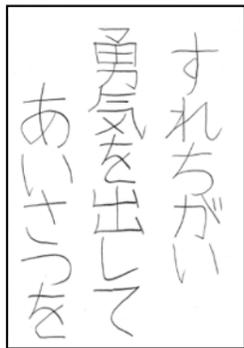
わたしは、毎日あいさつをしているので、ほかの人もキモチのいいあいさつをしてほしいです。



特別賞 西川 潤 (草津第二小学校6年)



知らない人とすれちがう時などは、なかなかはずかしくてあいさつができないけど、勇気を出せばできるはず。



令和元年度 市民会議会長表彰

青少年育成指導者の部 青少年育成学・区民会議での活動を通じて、青少年の健全育成活動に尽力されました (敬称略)

表彰者	推薦者
添島 秀彦	玉川学区青少年育成区民会議
中村 武仁	南笠東学区青少年育成学学区民会議

講演ライブ

JERRY BEANS(ジュービーンズ)

本年度は、バンド演奏と講演をミックスした「講演ライブ」を全国各地で行っておられる、JERRY BEANSさんをお招きしました。JERRY BEANSさんは、3人組のロックバンドで、全員が不登校だった経験をお持ちです。自身の経験をもとに、悩みを抱える子どもたちの心が少しでも楽になるように、メッセージを発信し続けておられます。

今回は、子どもたちへのメッセージはもちろんです。大人がどのように子どもたちと関わっていけばよいかを考えるきっかけとして、自身の体験から感じたことを伝えていただきました。会場では、子どもたちの壮絶な体験や、親子の深い愛情を感じるエピソードに涙する来場者の方も多く見られました。アンコールでは会場全員が立ち上がり、大盛況の中、笑顔で大会を終えることができました。



活動事例発表

「入との出会いを通して学ぶ、世界農業遺産学習」

活動事例発表では、渋川小学校6年生の児童6人から、「世界農業遺産学習」について発表していただきました。

滋賀県の農林水産業は、現在、伝統的で世界的に重要な農林水産業である、「世界農業遺産」に認定されることを目指しています。

渋川小学校では、その滋賀県の農業のすばらしさを学ぶため、農家の方をはじめとする

草津市立渋川小学校

ストティーチャーから工夫や苦労についてお話を聞いたり、実際に自分たちで農作物を調理して食べたりしながら学習を深めているそうです。

これまでに、琵琶湖を生かした米作りである「魚のゆりかご水田」や、草津市の「ベジックサ」(草津市産の野菜や米などの農作物)、滋賀県が発祥地と言われているお茶や、滋賀県の果樹作りなど、多様な学習を重ねて



これらも、ふるさと滋賀の魅力を学び、多くの人に伝えていく学習をしていきたいと発表されました。

青少年問題をみんなでトーク

「青少年問題をみんなでトーク」を12月8日(日)、草津市役所で開催しました。青少年の問題や問題点などの現状を知り、それぞれの立場での取組や情報を共有することで、関係者相互の理解を深め、青少年健全育成の発展につなげようと、一般参加の方を含め、青少年育成市民会議、学・区民会議関係者のほかPTAや教職員、各種団体などから43人の参加がありました。

はじめに、大津少年鑑別所長を講師に迎え、「滋賀県における非行についてー少年鑑別所の取組ー」と題して、少年鑑別所の位置付け、社会の変化と少年非行の推移、立ち直りに向けた支援についてなど、分かりやすくお話しいただきました。

少年鑑別所というところ、人によっては少年院と混同されることもありますが、少年鑑別所は家庭裁判所の求めに応じて、鑑別対象者(非行のあった少年)の資質やその環境上の問題等を鑑別(医学・心理学・教育学・社会学等の専門的なアプローチから明らかにするもの)し、その後の矯正等に関する適切な指針を示すという役割があります。また、関係機関・団体などと連携して、地域における非行および犯罪の防止に関する活動や、



健全育成に関する活動の支援等にも取り組んでおられます。

講演を受けて、地域の大人が連携して子どもを見守ることが、青少年の非行防止に対して重要な役割を持つということ、改めて認識することができました。その後、参加者が「どう感じていることや悩んでいること、子どもたちへの関わり方や接し方など、青少年の健全育成のために私たちにできることなどについて、グループに分かれて活発に話し合いました。

グループでは、「顕在化した非行は減っているが、SNSなど、見えにくい世界が広がっているのが怖い。」「地域、家庭、学校が連携していくことが大切である。」「親と子のコミュニケーションが大切であり、丁寧な言葉で挨拶を続けたい。」などの意見がありました。